

放課後等デイサービス自己評価表（事業者向け・保護者向け） 実施報告書

令和4年2月18日

社会福祉法人つみき  
つみき第7  
管理者 佐藤 顕紀

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、下記のとおり自己評価・保護者からの評価を実施しましたのでご報告いたします。

記

1、実施概要

自己評価表：常勤職員2名・非常勤職員2名を対象に実施。

実施日：令和4年2月15日

保護者向け評価表：利用者保護者18名を対象に実施（有効回答13件）

実施期間：令和4年1月24日～令和4年2月4日

2、評価方法

自己評価表・保護者向け評価表の結果を参考に、意見の多かった点について職員間で討議。

3、公表方法

ホームページにて公表。広報誌『つみき新聞』にてその旨を告知。

#### 4. 主な工夫している点

【設問 1】子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか

・・・昨年同様のご意見が 1 件有り（「人数が多くなった様な感じがしている為、十分なスペースがないような気がしている」）。実際は、1 日平均の利用者数が、一昨年度の 9 人→昨年度の 11.6 人→の増加傾向から一転、今年度は、3 名の退所に加えて、コロナ感染を警戒されての利用休止や日数を減らして利用される方もいる等の影響もあり、7.1 人と減少している（2021 年 4 月～2022 年 1 月までで集計。4 月：8.2 人 5 月：8.1 人 6 月：7.5 人 7 月：7.5 人 8 月：6.8 人 9 月：6.7 人 10 月：6.3 人 11 月：6.8 人 12 月：7.0 人 1 月：6.4 人）。昨年度は、日によって 13 人利用もあった状況と比べると、学習環境や活動スペースの確保等は、多少の余裕が出てきている。コロナ感染防止の観点から、室内の設定活動に参加する人数を 2～3 人に縮小したり、おやつを食べる時間帯や場所をずらす（例：室内と、公園のベンチでおやつを食べるチームとに分ける）等、工夫しながら密を回避している。

【設問 3】事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切にされているか・・・「段差はありますが、十分配慮してくださっています」とのご意見が 1 件有り。昨年度までの解答（公表している記述）と変わりはないが、1 階入口～階段エリアの照明具が切れて、足元が暗くなる危険な事態は、今年度は無し。

【設問 5】活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか

・・・今年度も続くコロナ禍で、学校休業日等の長期休み時には、少人数の規模（職員 1～2 人、利用者 2～3 人）で、屋外施設（例：荒川自然観察公園内の昆虫観察園、板橋こども動物園）や予約・人数制限の屋内施設（例：板橋教育科学館の展示室・プラネタリウム、葛西臨海水族園）へ公共交通機関を使っての外出活動も実施できた。又、学習部分では、算数の足す 1 以上の単元に進んでいる希望者 5 人による、30 分で何枚のプリントに取り組めるかにチャレンジする【公文マラソン】を夏に実施、利用者自身も「こんなに解けるようになった」と成長を実感出来るプログラムとなった。室内での活動プログラムの充実は、継続して図っている（例：月のカレンダー作り、今月の目標の標語作り、カセットコンロを使った鍋ラーメンやホットチョコレート作り）。

【設問 6】放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか

・・・「コロナ対策を十分してくださっています」というご意見が 1 件有り。昨年度までの解答（公表している記述）と変わりはなく、児童館への立ち入りは現在も自粛中。公園で、近隣の年少の児童と自然発生的に生まれる交流は稀に有り（例：板橋こども動物園で、兄弟姉妹がシーソー遊具で遊んでいたのを傍で見守っていた保護者が、つみきの利用者が近寄

った際に「一緒に乗る？」と言葉掛けをして下さった事により、しばらく一緒に遊ぶ形となった)。

**【設問 8】** 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか

・・・「前の先生とは、子供の状況をみていろいろと工夫して下さっていたので、とてもうれしかったです」というご意見が 1 件有り。職員数は、昨年 7 月時の 5 人→今年の 2 月以降は 3 人の状況であるが、現在は欠席者が多い事もある為、利用者一人に向き合える学習対応の時間は、それ程の影響は生じていない(全員が 6 時間授業後の利用で、ほぼ時間差なく学習がスタートした場合には、音読や学習作法の確認、テンポ誘導等が滞ったり、学習終わり後の利用者まで対応が行き届きにくい状況はある)。お迎えに来る保護者とは、出来る限りその日の活動・学習(姿勢や成績を含む)の様子をお伝えしたり、必要な際は、支援計画に沿った対応の実例・経過報告等もして、共通理解に努めている(例：課題：学習に気持ちが向かず、公文式プリントに取り組まない→立案した支援計画：「継続して算数・国語に取り組む」→対応と経過：単元を簡単な内容に戻す事で抵抗感が薄らいだ、好きなパズルを職員と一緒に取り組む流れから学習に移行出来た、ポイント表を貯める(算国両教科の取り組みが必須)事で、外出活動で行きたい場所(水族館)に行けた成功体験により、モチベーションの向上・継続が見られる)。

**【設問 9】** 保護者に対しての面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか

・・・「コロナだから」とのご意見(どちらともいえない、に「○」)が 1 件有り。コロナ禍の影響もあり、昨年度は中止していた面談を、今年度は後期に「希望者のみ」という条件で告知したが、希望される方がいなかった為、行わず。昨年度までの解答(公表している記述)と変わりはなく、相談を受けた事柄も含めて、お迎え時の引継ぎの際に、必要に応じて助言等を行っている。

**【設問 10】** 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか

・・・昨年同様のご意見が 1 件有り(「コロナのため今はむずかしいと思います」)。昨年度までの解答(公表している記述)と変わりはなく、今年度も、例年 11 月に行われる活動報告会の実施不可だった為、保護者同士が顔を合わせる機会は作れず。

**【設問 11】** 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか

・・・「苦情はありません」とのご意見が 1 件有り。保護者からの苦情というよりは、要望

があった際には適時対応している（例：自主登所・帰宅する利用者の保護者から、返却されていない過去の実績やサービス提供記録の捺印・返却をつみきから催促した際に、「子どもから渡されていないので、（今は）行方が分からない」との返答を受け、受け渡し方法や連絡・確認の仕方を打ち合わせて、改めた）。

**【設問 16】** 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか

・・・「通っている日が少ないため、訓練しているか分かりません」というご意見が1件有り。昨年度の改善目標として掲げていた3ヵ月に1回ペースの避難訓練実施は達成出来ず。但し、9/1（水）に利用者6人、1/27（木）に利用者3人を対象にした（地震想定）避難訓練を実施済み（避難訓練当日が欠席だったり、今年度から利用を始めた利用者の中で、まだ訓練を通して、非常口から避難する経路等の確認が出来てない児童もいる為、未経験者を対象に絞っての訓練は、今年度中に出来れば実施する。

以上